



事業の枠にとらわれず挑戦 活路を見出す

納品書や請求書などの伝票、県や市町村などから送付される税金の納入通知書、偽造防止用紙、保険証などの事務用印刷、チラシ、封筒、名刺などの商業印刷を得意とする秋田印刷製本。しかし、事業は“印刷業”の枠にとどまらず、様々な可能性に挑み続けている。

あきたこまちを2合または3合の少量パックに。真空タイプにして米の保存性を高めた。ラベルのデザインや小ロット印刷は、お手のものだ。

だが、その後は苦境に立たされた。バブル崩壊後の景気低迷に加え、追い討ちをかけたのが平成18年の“平成の大合併”。秋田県の市町村は、69 から25に減り、行政の仕事が主流だった同社は、秋田県内で22軒の大口得意先を失った。県外を含めると、それは約100軒にまで及んだ。

平成12年に会社を継いだ大門社長。得意先を失って困り果てていた時、農家の友人から、米販売について相談を持ちかけられた。魚沼産コシヒカリに比べて価格が安い県産あきたこまち。しかし、アンケート調査を行ったところ、味の評価やブランドイメージは非常に高いことが分かった。課題は「売り方」ではないか…。そこで社内でプロジェクトチームを立ち上げ、保存性の高い真空パックや筒型パッケージを採用するなど、少量で付加価値の高い商品づくりを開始した。

❖ もっと地元のものに目を向けるべき

付加価値を上げるために、米とセット販売しようと他の特産品や加工品にも目を向けた。県内から様々な商品を探し、試食を繰り返して本当においしいと思えるものだけを厳選。オリジナルセット商品を開発した。今や

同社と提携する業者は、漬物店、稲庭うどんメーカー、味噌の醸造元など23社にのぼる。

「米の販売事業を始めて見えてきたのは、秋田県内には素晴らしい商品や技術がたくさんあるという事実。我々秋田で生きる人間は、もっと地元のものに目を向け、その価値を評価し、外に向けて魅力を発信しなければ」と思いを語る。

商品開発において、アイデアや企画の提案、ラベルやパッケージなどの制作は、印刷会社としての本領を発揮している。「農工商連携や、企業同士がコラボする“商商連携”がもっとあっていいと思う。1つ1つは小さな力でも、仲間が集まり、自分たちの得意分野を活かして協力することで大きな力になる」

地元農家とコラボして挑むあきたこまち販売事業は、着実に成果を上げている。売り方を工夫し、付加価値の高い商品づくりを模索した結果、米の売り上げは平成27年度で約1,500万円と、5年前の20倍に成長した。

今年度中には、販売事業や商品開発を専門に行う新会社を設立する予定でいる。「やる気のある人や企業と力を合わせて地域活性化に挑み、秋田に外貨をもたらしたい。秋田を元気にしたい」。そう力強く答える。

❖ 印刷業と販売事業の2本柱

秋田市に拠点を構え、東北全般を営業エリアとする「秋田印刷製本」。印刷業と2本柱で力を入れているのが、あきたこまちや日本酒、加工食品など秋田県産品の商品開発・販売だ。

例えば、米は地元の農家と提携。自社で精米やパッケージングを行い、自社ショッピングサイトで販売している。酒については、一般酒類小売業免許を取得し、秋田県産の地酒とつまみのセット商品を開発し、頒布会形式で販売。

他にも、米粉を使ったケーキやお好み焼き、米粉麺などの開発・販売を手掛けている。

これらは、決して印刷業の片手間の副業ではない。米においては、敷地内に専用の作業場を設け、精米機、青米やくず米などを取り除く色彩選別機、真空パックに

使用する真空充填機を設置。また、商品ラベルやパッケージ制作を強化するために少量多種対応可能な「カッティングプロッター」を導入した。「自社で販売すると決めたら、業者に丸投げせず、とにかく自分たちで試して実行してみる。商品のことを自分たちでしっかり理解したうえで開発や販売を行う。自ら確かめて考えて、責任を持って実行するスタイルは、長年当社に受け継がれる企業風土」と大門一平社長は胸を張る。

❖ 農家からの相談がきっかけ

創業は昭和25年。秋田市南通でスタートを切った。初代社長は伯父、2代目が父で、大門社長は3代目。印刷物を作れば作るほど利益が上がった昭和の時代は、増資を繰り返して経営を拡大し、平成2年には秋田市御所野に工場を新築し、順調に成長を続けていた。



- A 企画・開発した米やうどん用のパッケージ。写真奥が紙管を使った筒型タイプ。手前は真空タイプ。
- B あきたこまちに、がっこ(漬物)や加工品をセットにして付加価値を高めたオリジナルギフト。
- C 印刷工場では、ビジネスフォーム印刷はじめ、一般事務用、商用など様々な印刷を行っている。
- D 各種税金の納付書など、行政関係の印刷物の取り扱いが多い。
- E 米専用の作業場での大門社長。奥は真空充填機。中にはオリジナルであつた機械もある。



秋田印刷製本株式会社

〒010-1415 秋田県秋田市御所野湯本2-1-9

TEL.018-839-7554 FAX.018-839-9433

http://www.akitainsatu.co.jp E-mail:forms@akitainsatu.co.jp

- 設立/昭和25年5月27日
- 資本金/3,000万円
- 従業員数/50人
- 事業内容
各種印刷業務、米・県産品等販売、
一般酒類小売業等